

句集

二輪草



小阪喜美子
宇根綾子

小阪喜美子さんの明るさの中にある若さと潔さの句を
〈明潔なる情景俳句〉と呼ぶ。

宇根綾子さんの力と永遠の生命を感じる句を
〈生命の情景俳句〉と呼ぶ。

ともに末永く称えてゆきたい。

—— 小澤克己「序」より ——

二輪草・小阪喜美子集

河豚の客伊藤博文よく知りぬ

歩道橋より下校児と初蝶と

切株に段差のありて赤とんぼ

口笛のほどよき音色小鳥来る

平穩の姉妹連れだち秋惜しむ

歳の市杵目の下駄を見つけたり

寺
多
き
根
岸
界
隈
春
近
し

覗
き
見
る
探
鳥
窓
の
花
万
朶

若
楓
覆
ひ
て
雨
の
不
染
亭

そ
れ
ぞ
れ
の
羅
漢
に
新
樹
雨
こ
ぼ
る

枯蘆の幾曲りして舟問屋

一人酌む傘壽の姉や新走り

新
海
苔
の
香
の
底
に
母
の
声

初
句
会
去
年
ま
で
姉
の
在
り
し
か
な

思ひ出にみな姉がゐて青き踏む

父のセル服に仕立てし昔かな

ラムネ飲む底に天界映しつつ

飛魚の一闪追うて壱岐對馬

わし 摺みしては名代の若布売

ハンカチは真白がよろし女学生

散りぢりに遊びほうけて
天の川

子と共にビートルズ聴く
夜長かな

冬
風
や
浦
の
家
並
に
ジ
ャ
ズ
流
る

趣
味
の
よ
き
姉
の
形
見
の
冬
帽
子

二輪草・宇根綾子集

春愁や汚れめだちし旅鞆

さりげなき老のお酒落や春裕

鍋底にガス火とびつく梅雨曇

久々に語る姉妹の短夜ぞ

平和へのあふるる叫び広島忌

歳なりのソーシャルダンス文化の日

ふぐと汁郷の縁のうすれけり

寒鰯の手鉤にかけて高値よぶ

初潮のもりあがりくる浮燈台

生き生きと鱸鰯ふる糶の市

高西風にタンカー湾をせばめたり

蘆の絮風の手に波響

冬
風
の
突
堤
白
く
乾
き
け
り

新
し
き
橋
の
か
か
り
て
夕
薄
暑

サングラスとりて優しき顔のあり

夕ごころ仰げば遙か帰燕かな

やすらぎや菩薩の肩の春の蝶

釣りあげし鱸光の玉散らす

青空の一点となり鷹来る

落葉して故郷の海の見えるらし

小阪喜美子 (こさか・きみこ)

1927年2月 下関に生まれる
1990年6月 小澤克己に師事
1992年5月 「遠嶺」入会
1995年5月 「遠嶺」同人 (陽嶺集Ⅱ)
2001年1月 「遠嶺」同人 (高嶺集)

現住所 〒350-1131 埼玉県川越市岸町3丁目21番地37

宇根綾子 (うね・あやこ)

1916年1月 下関に生まれる
1991年5月 小澤克己に師事
1992年5月 「遠嶺」入会
1997年1月 「遠嶺」同人 (陽嶺集Ⅰ)
1998年12月 逝去

句集「輪草」にりんそう

発行 平成十八年二月二十六日

著者 小阪喜美子 ©K.Kosaka

宇根綾子 ©A.Une

発行人 松尾正光

発行所 株式会社 東京四季出版

〒160-0001 東京都新宿区片町一―一四〇二

電話 〇三(三三五八)五八六〇

振替 〇〇一九〇―三一九三八三五

印刷 西武印刷株式会社

定価 二六〇〇円 (本体二四七六円+税)

ISBN4-8129-0415-3

落丁・乱丁はお取替いたします